

浅間総合病院 救急部門 初期研修プログラム

I

II 救急研修プログラム

1 研修一般目標 (GIO)

- ① 救急外来において、救急患者の管理に必要な知識と技術を身に付ける
- ② 救急室で使用される薬剤、医療機器に精通する
- ③ 専門医が対応するまで、適切な処置で病状の悪化を最小限にできる能力を身につける。

2 研修プログラム (SBOs)

1) 救急患者の受入

- ① 既往歴、現病歴を本人のみならず、紹介医、救急隊、付き添い、警察官などから効率よく聴取できる
- ② 的確に現症をとり、診断の予測を立て、検査の順位を決めることができる
- ③ バイタルサインのチェックができ、その意義を述べることができる
- ④ 患者の苦痛に対し、原疾患を悪化させずに苦痛を取り除く手段をとれる

2) 救急蘇生の一次救命処置を実施できる

- ① 気道確保ができる
- ② マウス・ツー・マウス人工呼吸ができる
- ③ バッグ・マウス人工呼吸ができる
- ④ 気管穿刺用具を適切に使用できる
- ⑤ 心臓マッサージができる

3) 心肺蘇生の二次救命処置を実施できる

- ① 中心静脈を確保できる
- ② 気管内挿管ができる
- ③ 直流除細動の適応を理解し、的確に実施できる
- ④ 救急薬品の薬理を理解し、的確に使用できる
- ⑤ 胸腔穿刺ができる
- ⑥ 心嚢穿刺ができる
- ⑦ 膀胱留置カテーテルを挿入できる

4) 頻度の高い救急疾患の緊急度と重症度を判断できる

- ① ショック (出血性、心原性、アナフィラキシー)
- ② 意識障害 (頭部外傷、脳血管障害、急性中毒、代謝性疾患)
- ③ 呼吸困難 (気道閉塞、呼吸不全、心不全、中枢性疾患)
- ④ 不整脈 (心室細動、心室頻拍、徐脈性不整脈、上室性頻拍)
- ⑤ 胸痛 (虚血性心疾患、胸部大動脈瘤、大動脈解離、気胸)
- ⑥ 腹痛、急性腹症 (消化管穿孔、イレウス、急性虫垂炎、胆石症、急性膵炎、腸間膜動脈塞栓症、卵巣嚢腫茎捻転、子宮外妊娠破裂)
- ⑦ 多発外傷に応じて救急処置の順番を決定できる
- ⑧ 多数の患者が同時に来院したときのトリアージができる

5) 頻度の高い外傷の診断と処置が適切にできる

- ① 出血に対する各趣旨血胞を実践できる
 - ② 創傷の局所療法（止血、縫合、洗浄、デブリードマン、ドレナージ）ができる
 - ③ 一次縫合をしてはならない汚染創を処理できる
 - ④ 典型的な骨折、脱臼、捻挫の診断ができる
 - ⑤ 脊椎損傷が疑われる場合、脊椎の転位を来たさないように診察できる
 - ⑥ 頭部外傷患者の初期治療ができる
- 6) 救急検査手技に習熟する
- ① X線写真、心電図、超音波検査、動脈血ガス分析検査、血清電解質測定、血糖検査を自ら実施し、その結果を総合的に解釈できる
 - ② 血液型判定、血液交差試験を自ら実施できる